

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	673000519
法人名	有限会社 互惠
事業所名	グループホーム「ママ家」
訪問調査日	平成 19 年 12 月 3 日
評価確定日	平成 20 年 2 月 6 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月31日

【評価実施概要】

事業所番号	673000519
法人名	有限会社 互惠
事業所名	グループホーム「ママ家」
所在地 (電話番号)	山形県鶴岡市常盤木字関口103番地3 (電 話) 0235-78-7900

評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成19年12月3日	評価確定日	平成20年2月6日

【情報提供票より】(平成19年10月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	26 人	常勤	12 人, 非常勤 14 人, 常勤換算 16.2 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	新築/改築
建物構造	木造瓦葺 造り	
	一部2階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,950 円	その他の経費(月額)	27,000円 他実費
敷 金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(100,000)円 無	有りの場合 償却の有無	有/○無
食材料費	朝食	250 円	昼食 270 円
	夕食	360 円	おやつ 120 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(10月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	9 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.44 歳	最低	72 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐久間医院(内科・胃腸科・外科・小児科・産婦人科) 佐久間歯科医院
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

助け合い支え合う「互惠の精神」で開設されたホームは、地域社会も巻き込んだ「互惠の社会」づくりを目指した活動を進めてきており、家族会や運営推進会議では、運営や契約など専門職からの建設的な意見が出され、さらなる充実への期待が高まっています。
また、研修制度が確立され、段階に応じた人材育成も行われており、今年度は主任・副主任の内部研修に特に力を入れて取り組んでいます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はありません。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価、外部評価の意義を理解し、地域に密着した暮らしを継続するための学習を行い、その実践に全員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	11月は感染症をテーマに取り組みや話し合いが行われた。また、毎月提供している「今月の様子」には、健康状態や事故の可能性、事故情報を載せ、疾病、感染症、事故の予防とサービス向上を図っていくことが決まった。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時や家族会、運営推進会議の機会を生かして家族の意見等を吸い上げており、最近では「衣服の購入」や「床のセンサー」などの意見について検討されている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、総会や祭りなどの行事に参加して地域の一員としての活動をしている。また、老人クラブの「生き生き会ボランティアアカデミー」など、イベントの開催にも施設を開放して交流を深めている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規程で「日常的に地域の人々と交流する事を通して、認知症への理解を広める」と明確に定められており、地域の行事や農園などに出かけ、施設を開放し、交流を深めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員によるミーティングで、日々の介護方法について検討しながら、理念の共有やその実践に取り組んでいる。月1回の主任会議やユニット会議、定期的な管理者との個別面談などでその徹底を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、総会や祭りなどの行事に参加して地域の一員としての活動をしている。また、老人クラブの「生き生き会ボランティアアカデミー」など、イベントの開催にも施設を開放して交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の意義を理解し、地域に密着した暮らしを継続するための学習を行い、その実践に全員で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	11月は感染症をテーマに取り組みや話し合いが行われた。また、毎月提供している「今月の様子」には、健康状態や事故の可能性、事故情報を載せ、疾病、感染症、事故の予防とサービス向上を図っていくことが決まった。		

山形県 グループホーム「ママ家」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	町の担当者とは頻りに連絡を取り、最近では事故報告の資料作りや住民希望の配食のあり方を相談して、共に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	日々の「介助記録」をまとめ、個別に「今月の様子」として担当職員や看護師が暮らしぶりや健康状態を報告している。小遣帳もコピーして細かに報告し、また、職員の異動は「ファミリー通信」に掲載して送付している。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族の面会時や家族会、運営推進会議の機会を生かして家族の意見等を吸い上げており、最近では「衣服の購入」や「床のセンサー」などの意見について検討されている。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	必要最小限の異動を心がけ、利用者とのコミュニケーションを図り、ダメージを防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	新人研修や継続研修など、段階に応じた研修が行われている。また、資格取得のための支援も行われている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム協議会の会員として、交換実習や介護実技講習会の受け入れなど、交流をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の役割やレクリエーションを通して一緒に生活しながら、「共にある」を意識しながら関係を作り、家族のように支え合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、常識を振り回さずに利用者の心にうまく入っていき、希望や意向が把握できるように努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各担当者を中心にケース検討を行った後、利用者本位の介護計画をチームで作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しを行うことに加え、状況に応じて関係者と協議し、新たな介護計画を速やかに作成して対応している。		

山形県 グループホーム「ママ家」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	家族や本人の希望を重んじ、かかりつけ医と協力医の 連携を取り、適切な医療を受けられるように支援してい る。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	利用開始時に運営規程で説明し、家族の意向を確認 している。重症化した場合は、個別相談や関係スタッ プで協議をし、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	利用者の人格を尊重し、プライバシーを損ねることのな いように対応している。個人情報の保護についても運 営規程や職員規程を厳守し、人事評価の対象にもして いる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を優先しながら自立支援を目指し、その 人らしく笑顔で過ごせるように支援している。		

山形県 グループホーム「ママ家」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	山や畑から収穫した食材の下ごしらえや調理、後片付けなど、能力に応じて楽しみながら行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夏期には1日に2回入浴することもあり、利用者の希望に添いながら入浴を自由に楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意分野を発揮してもらい、調理関係、洗濯、ホールの整理などを職員と一緒にしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の当日の体調や希望を確認し、できるだけ戸外に出かけるように支援している。地域の寺参りや散歩コース、畑作業、バスハイキング、グラウンドゴルフ、観劇など、外出の機会は多岐に涉っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	全職員で施錠の弊害について学習されており、安全で細やかな介護の実践に取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した避難訓練も定期的に行い、火災報知器の他に「外向き」のサイレンで災害を近隣住民に知らせ、協力を得ることになっている。		

山形県 グループホーム「ママ家」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嚥下状態に合わせて、ヨーグルト、ゼリー、粉末寒天などを利用した、栄養バランスの取れた食事を提供している。また、水分量も記録に残し、摂取不足がないように努めるとともに、医師や管理栄養士による点検も行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は光も程よく清潔であり、季節感のある飾り付けがなされ、床暖房を利用した寒さ対策も行われている。また、トイレなどには空気清浄機が置かれ、臭いへの配慮もなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や位牌、小引き出しなど、一人ひとりが使い慣れた思い出の品を持ち込み、その人らしい部屋作りをしている。		